

市民のためのサイエンス講座

記憶のしくみと心のなりたち

ノーベル賞受賞 利根川進氏 特別講演

2015年9月27日(日) 13:00~16:30 [開場 12:30]

会場 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

入場無料

定員1,200名

※下記要領でお申し込みください。
お申し込み多数の場合先着順となります。

講演

14:15~15:20

記憶のしくみと心のなりたち ノーベル賞受賞後のチャレンジ

マウスの脳の一部を操作して、記憶を人工的に書き換えることに成功した実験など、記憶の仕組みに迫る最前線の研究を解説します。少年時代のエピソードや、ノーベル賞受賞までの道のりのほか、免疫学から脳科学へと研究分野を大きく転換したことなど、研究者人生についてもお話します。

マサチューセッツ工科大学教授

利根川 進氏

●とねがわ すずむ

【講師略歴】

京都大学理学部卒、カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院修了。スイス・バーゼル免疫学研究所などを経て、1981年よりマサチューセッツ工科大学教授。1987年ノーベル生理学・医学賞受賞。2009年より理化学研究所脳科学総合研究センター長を兼務。



15:30~16:30 ■ 高校生と大学生が利根川氏を囲むディスカッション予定

13:00~14:00

うれしい出来事はなぜ忘れないのか

東北大学包括的脳科学研究・教育推進センター長

飯島 敏夫氏

●いいじま としお

うれしいこと、悲しいことは特に強く記憶に残るが、それはなぜでしょう。記憶に重要な海馬や扁桃体、そしてその周辺皮質の機能的構造の研究から、情動と結びついた体験が記憶として残りやすいという特性を説明します。



海馬は一生神経細胞を作り続ける

東北大学大学院医学系研究科創生応用医学研究センター長

大隅 典子氏

●おおすみ のりこ

記憶の入り口として知られる「海馬」という脳の領域では、生涯にわたり神経幹細胞から神経細胞が作られ続けます。そのことが記憶の形成や消去にどのように関わっているのか、運動・食事・睡眠がどんな影響を与えるのかについてお話します。



辛い記憶とどう向き合うか

東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野教授

富田 博秋氏

●とみた ひろあき

東日本大震災から4年を経た今でも当時の記憶が蘇って辛い方が大勢おられます。医学や脳科学の視点から辛い記憶にどう向け合えばよいのか、また、辛い記憶に苦しむ方のために何をすればよいのかという課題に取り組んでいます。



【講師略歴】

東北大学理学部卒、同大学院修了。カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部などを経て、2001年より東北大学大学院生命科学系研究科教授。東北大学副学長、理事など務める。

【講師略歴】

東京医科歯科大学歯学部卒。同大学院修了後、同大学助手、国立精神・神経センター神経研究所室長を経て、1998年から東北大学大学院医学系研究科教授。

【講師略歴】

岡山大学精神科、長崎大学人類遺伝学教室、カリフォルニア大学アーバイン校精神科、東北大学精神・神経生物学分野等を経て2012年より現職。

お申し込み方法

「住所・氏名・職業・年齢・電話番号・希望人数」を明記し、ハガキ、FAXまたはEメールでお申し込み下さい。入場整理券を郵送します。

ハガキ宛先 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-3-6 読売仙台ビル3階 読売新聞東北総局 「市民のためのサイエンス講座」係

FAX送付先 022-222-8386

Eメール送信先 tohoku@yomiuri.com

■お申し込み締切 いずれも9月6日(日)必着

■お問い合わせ 読売新聞東北総局 TEL 022-222-4121

東北大学総務企画部広報課 TEL 022-217-4977

会場へのアクセス

東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内40

【バス】

■仙台駅前9番のりばより「宮教大・青葉台行」、「宮教大・成田山行」、「青葉通経由動物公園循環」に乗り、「東北大川内キャンパス・萩ホール前」で下車(乗車時間約15分)徒歩3分

■仙台駅前16番のりばより「広瀬通経由交通公園・川内(営)行」または「広瀬通経由交通公園循環」に乗り、「川内郵便局前」で下車(乗車時間約15分)徒歩7分



【タクシー】仙台駅から約10分、仙台空港から約40分

【徒歩】地下鉄広瀬通駅から徒歩約25分、仙台駅から約40分

※所要時間は交通状況により異なります。 ※できるだけ公共交通機関をご利用ください。